

農業・農村構造の現状と動向

-- 2000年農業センサス分析 --

(その1)

本特集は、農林水産政策研究所内で組織した「2000年農業センサス分析検討会」における共同研究成果の概要を紹介しようとするものである。

当検討会では、以下の10のテーマを設定してメンバーで分担・分析した。農家構成の変化、家族経営の世代構成、農家世帯員の就業状況、農地の利用状況、農家以外の農業事業体の動向、園芸作の生産構造、畜産の生産構造、環境保全型農業の展開、農業サービス事業体の動向、農業集落の動向がそれである。このうち～を本号に収録し、～は次号に掲載する予定である。

これらの研究成果の一部は、既に2001年度の農林水産政策研究所ワークショップをはじめ、日本農業経済学会・地域農林経済学会・農業問題研究学会・日本農業経営学会等で個別に報告・発表されており、そこで受けたコメントも参考にしながら現在当所「農林水産政策研究叢書」として総合的なとりまとめを行っているところである。

言うまでもなく2000年農業センサスは、90年代後半のWTO体制の発足と新基本法の制定という、新たな環境の下での日本農業の変容と今後の農政の課題を総体的に明らかにする基礎統計として重要である。その統計書の刊行とともに分析結果が各方面で発表されつつあるが、我々が取り上げる各テーマにおいて特に注目すべき論点を箇条書きにしてみれば次のようである。

- 農家構成の変化にみられる自給的農家の滞留と上層農家形成プロセスの変化
- 経営面からみた農家世帯の世代構成と経営継承の可能性
- 農家世帯員の就業状況の変化と農業労働力の高齢化がもつ意義
- 農地利用における流動化の進展と遊休・荒廃農地の拡大
- 水田農業における非法人型「農家以外の農業事業体」の新展開
- 園芸作農家における専作化傾向と部門総体としての規模縮小
- 畜産経営における大規模化・専門化と副業的経営の離脱
- 環境保全型農業の地域的展開と実践農家の経営的特徴
- 農業サービス事業体の作業面積の拡大と農地資源管理機能
- 農業集落の減少と変貌および集落機能維持の可能性、等である。

以下の分析結果が、現在の日本農業の構造的変化と展開方向を考える上でご参考になれば幸いである。なお、成果の詳細については各担当者にお問い合わせをいただきたい。

(千葉 修)